

行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況(H28.7)

基本目標 1 産業を振興し、安定した雇用を創る [地域産業振興戦略]

数値目標	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
雇用創出数	114 人	17 人	500 人 (累計)

(1) 企業誘致の推進と雇用の創出

平成27年度は、企業誘致条例に基づく企業立地奨励金により、新たに1社が市内に立地した。また、新・増設企業雇用者数については、1人に止まった。

平成28年度も引き続き、県内最高水準の企業立地奨励金により更なる企業誘致に取り組む必要があるが、現在、市内の工業団地は空きがなく、新たに企業が進出できる土地が少ないことから、新規企業立地件数は伸び悩むことが予想される。今後、行田市産業振興ビジョン等に位置付けたみなみ産業団地周辺の新たな工業団地整備等について、中長期的な視点で検討する必要がある。

K P I	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
新規企業立地件数	6 件	1 件	15 件 (累計)
新・増設企業雇用者数	86 人	1 人	300 人 (累計)

(2) 地元企業の育成支援

平成27年度は、事業拡大設備投資事業補助金や事業所ホームページ立ち上げ事業補助金等により、経営を側面から支援するとともに、「ぎょうだエコノミックガーデニング」のホームページを立ち上げ、市内中小企業を情報面で支援した。関係K P Iについては概ね順調に推移しており、今後も目標に向けて各事業を継続していく。

平成28年度からは、これまでの補助金に加えて、新たに従業員資格取得事業補助金により、市内企業に勤める市民の資格取得を支援する。また、これらの補助金は、中小企業等のニーズに応じて、その内容や対象について、随時見直しを図っていく。

K P I	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
設備投資、販路拡大等の支援件数	—	7 件	4 件
求人合同説明会、ビジネス交流会等の出展支援件数	—	6 件	5 件
事業所ホームページ立ち上げ支援件数	5 件	4 件	8 件

※ K P Iの「H31 目標値」に「(累計)」表示があるものは、H27年度～H31年度の5年間の累積値を目標とする。

(3) 起業・創業の支援強化

平成27年度は、市役所本庁舎の商工観光課内に創業者支援ワンストップ窓口を設置し、創業等に関する相談等にワンストップで対応できる体制を整備した他、市内空き店舗等を利用した起業について補助する起業家支援事業により、市内での起業・創業を支援した。関係KPIについては、基準値と比べて減少しており、今後も継続した支援が必要である。

平成28年度は、これまでの取組みに加えて、Uターン創業や第二創業、事業承継を支援することで、産業の活性化を図る。また、北谷通りにおいてチャレンジショップを開設し、起業家支援事業とは別の手法による開業を支援する。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
起業・創業等支援件数	11件	5件	65件(累計)

(4) 農業の担い手確保と成長支援

平成27年度は、農地利用の集積・集約に向けた農地中間管理事業が本格的に始まり、72haの農地が担い手に集積・集約化された。また、土地改良事業(荒木郷地裏地区)に対して費用を負担し農業生産基盤整備の促進を図った。関係KPIについては、現状維持又は微増の指標が多く、今後更なる取組みが必要である。

平成28年度は、新たに「攻めの農業支援事業補助金」をスタートし、特産品として期待できる農産物の生産や6次産業化、市民農園・観光農園開設、生産方法改善等の取組みを行う営農者に対して補助を行うことで、農業経営の強化と成長産業化を図る。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
農地中間管理事業取組面積	—	72ha	145ha
大区画ほ場整備率(30a以上)	29.0%	30.2%	30.0%
農業生産法人件数	3件	3件	7件
担い手育成支援件数	3件	2件	6件
攻めの農業支援事業取組数	—	—	8件
地産地消応援団登録件数	—	13件	50件
ブランド化推進品目数	2件	2件	3件

基本目標 2 地域の魅力を高め、ひとの流れと賑わいを創る [魅力アップ・賑わい創造戦略]

数値目標	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
転入者数	2,357 人	2,457 人	2,500 人
観光入込客数	1,466,452 人	1,431,961 人	1,900,000 人

(1) 地域資源を活かした観光戦略の推進

平成 27 年度は、田んぼアート米作り体験事業や、当該事業で排出される稲わらを再利用した巨大なわらアート制作事業などのイベントに加えて、市役所南側バスターミナルの隣接地に新たに観光案内所を整備するなど、ハード、ソフトの両面から観光施策の強化を図った。関係 K P I は、主要観光施設における観光入込客数は増加したが、レンタサイクル貸出数は減少した。

平成 28 年度は、観光客が市内各所に点在する観光施設を快適かつ効率的に回遊できるよう、スマートフォン向けの観光周遊アプリを開発する。また、2019 年ラグビーワールドカップや 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催などにより、今後も日本を訪れる外国人観光客の増加が予想されるため、訪日外国人を対象としたモニターツアーの実施や、外国語対応観光ボランティアの育成などを行う。

K P I	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
観光入込客数 (主要観光施設)	186,721 人	218,827 人	218,000 人
外国人観光客入込客数	—	—	30,000 人
レンタサイクル貸出数	4,061 人	3,744 人	9,350 人

※ 主要観光施設…郷土博物館、古代蓮会館、はにわの館 入館者 (利用者) の合計

(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出

平成 27 年度は、行田市駅周辺地区における行田らしいまち並みづくりと賑わい創出に向けて、北谷通りにおける周辺環境との調和を図った道路整備、バスターミナル観光案内所整備、観光案内板やサインの整備などを実施したが、いずれも完成が年度末となったこともあり、関係 K P I である観光案内所利用者数は減少した。また、ふるさとづくり事業の「行田らしいまち並みづくり事業」として、景観に配慮した外壁の改修等 4 件に対して補助することで、行田らしいまち並み景観の創出を図った。

平成 28 年度は、引き続き北谷通り・蓮華寺通り周辺における道路整備や、ふるさとづくり事業を継続して行うとともに、市役所通りにおけるせせらぎ水路や築地塀整備などにより、行田らしいまち並み景観の形成と賑わいの創出を図る。

K P I	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
観光案内所利用者数	30,347 人	26,689 人	42,100 人

(3) 移住・定住及びU・J・Iターンの促進

平成27年度は、平成25年4月から開始した子育て世帯定住促進奨励金の最終年度であったが、当該奨励金により計428人が本市に定住した一方で、企業誘致条例による従業員転入奨励金の利用については4人に止まった。

平成28年度は、子育て世帯定住促進奨励金をリニューアルし、新たに三世帯同居又は近居を対象とした他、Uターン創業支援事業補助金などにより、創業や第二創業、事業承継に対する支援を行うことで、本市への定住を図る。また、平成29年度中の空き家バンク創設に向けて、引き続き調査研究を行う。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
子育て世帯定住促進事業による定住者数	369人	428人	500人
従業員転入奨励金の利用者数	10人	4人	12人
Uターン創業等の支援による定住者数	—	—	20人
行田歴史探訪ツアー参加世帯数	—	—	30世帯

(4) 行田の魅力発信

平成27年度は、引き続き市ホームページやSNSを利用して、様々な市のイベントや取り組み等について情報を発信するとともに、第3回行田CMコンテストを開催し、入賞作品を市ホームページや動画共有サービスで公開することで、市の魅力を広くPRした。

平成28年度は、引き続き市ホームページやSNSを活用した情報発信や、動画を活用した市の魅力PRを行うとともに、本市へのふるさと納税寄附者に対して送付している記念品の充実を図ることで、市の特産品のPRを図る。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
市ホームページアクセス数	843,719人	902,874人	950,000人
Facebook「いいね」数	95件	4,365件	2,880件
ふるさと納税寄附額	—	2,530,000円	10,000,000円

基本目標3 若い世代が希望する結婚・出産・子育ての環境を創る「子ども安心育成戦略」

数値目標	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
合計特殊出生率	1.16%	※	1.26%

※ 市町村別の合計特殊出生率は、翌年の10月～11月頃発表

(1) 結婚・妊娠・出産・育児のライフステージに応じた支援

平成27年度は、街コンの開催や自分磨き講座などの若者に対する結婚支援、不妊治療費助成による妊娠を希望する夫婦に対する支援を行うとともに、市内の産科医師等の確保を目的とした分娩手当等に対する助成、妊婦健康診査に対する助成、生後4か月までの乳児と母親を対象とした家庭訪問など、結婚から妊娠、出産、育児まで切れ目のない支援を行った。関係KPIは、婚活イベント等参加者数や地域子育て支援拠点の利用者数は増加したものの、妊娠届出数や乳幼児健診受診率は若干低下し、また平成27年度から開始した子育て応援訪問相談件数についても、電話相談4件に止まった。

平成28年度は、これらの事業を継続的に実施するとともに、各事業について積極的な周知に努め、市民が安心して結婚し、子どもを生み育てることができる環境の整備・充実に取り組む。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
婚活イベントへの参加者数	115人	130人	600人(累計)
妊娠届出数	550件	495件	580件
乳幼児健診受診率	95.8%	94.7%	100.0%
地域子育て支援拠点の利用者数	33,217人	33,830人	35,000人
子育て応援訪問相談件数	—	4件	10件
子ども医療費支給件数	139,649件	135,119件	139,649件

(2) 子育てと就労の両立支援

平成27年度は、市内8保育園において延長保育を実施したほか、市内1・市外1幼稚園における預かり保育に対する助成により、子育てと就労の両立を支援した。学童保育室については、市内14室の運営及び運営補助を行うとともに、学区内の学童保育室が満室又は学区内に学童保育室がない場合には、ファミリー・サポート・センター事業を活用した送迎により対応した。また、女性の就業支援として、再就職を希望する女性を対象とした再就職セミナー等を開催したほか、経営者や人事担当者及び女性管理職を対象に、女性が就業を継続し、男女ともに能力が発揮できる職場づくりの取り組み等についてのセミナーを開催した。

関係KPIについては、保育定員数、学童保育室数ともに順調に推移しており、引き続きこれらの取組みを継続するとともに、南小学校校舎内に、新たに南第一学童保育室を開室する。また、女性の就業支援については、昨年度実施したセミナー等に加えて、キャリアアップに必要な知識を習得するためのセミナーや、女性起業応援シンポジウム等を開催する。

K P I	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
保育所・認定こども園・地域型保育の保育定員数	1,160 人	1,180 人	1,190 人
学童保育室数	12 箇所	13 箇所	16 箇所
女性就業率	46.7% (H22)	※	56.0%
子育て応援企業補助金による育児休業者数	—	0 人	15 人 (累計)

※ 国勢調査の結果によるもので、平成29年3月頃公表される予定

(3) 多子世帯の負担軽減

平成27年度は、3人以上の子どもが同居している世帯のうち、3歳未満で第3子以降の子どもが保育所等を利用している保育料の無償化を新たに実施したほか、子育てジョイ・ハッピー事業の継続実施により、多子世帯の負担軽減を図った。関係K P Iは概ね順調に推移しており、今後もこれらの事業を継続し、多子世帯の負担軽減に努める。

平成28年度は、新たに、市立小・中学校又は特別支援学校小・中学部に在籍している児童生徒を3人以上養育している保護者に対し、市立小・中学校に就学している3人目以降の学校給食費を補助するなど、子どもの成長段階に合わせた支援を充実する。

K P I	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
第3子以降分の児童手当受給世帯数	829 世帯	901 世帯	829 世帯
子育てジョイ・ハッピー事業利用世帯数	83 世帯	87 世帯	90 世帯
子育て世帯定住促進事業の利用多子世帯数	14 世帯	7 世帯	30 世帯

(4) 行田の未来を担う人材育成

平成27年度は、これまで実施していた少人数学級編制を拡大し、小・中学校全学年を35人以下学級とすることで、よりきめ細やかな教育の充実を図るとともに、引き続き市内4小学校及び1中学校において校舎のトイレ改修工事を実施し、教育環境の改善を図った。また、学校では学べない体験学習を通じ、今日的な課題に進んで関心をもち解決しようとする資質を育むことなどを目的とした子ども大学ぎょうだは、小学校4年生から6年生までの48名が参加して計6回学習プログラムを実施し、参加者の満足度は高い数値となっている。

平成28年度は、これらの取組みを継続するとともに、小学校3・4年生の算数授業における個別指導の充実を目的としたパワーアップサポーターの配置や、特別な支援を必要とする子どもに対する支援として早期療育事業を新たに実施し、よりきめ細やかな教育の充実に努める。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
全国学力・学習状況調査結果 小6：国語A	100.1	101.2	100.0 以上
国語B	95.9	96.4	
算数A	99.0	96.9	
算数B	92.4	93.7	
Q「学校に行くのは楽しいと 思いますか」	102.0	102.8	
中3：国語A	98.2	99.9	
国語B	96.0	99.2	
数学A	97.1	100.6	
数学B	96.8	100.0	
Q「学校に行くのは楽しいと 思いますか」	101.3	106.9	
県学力・学習状況調査結果	※ H27 数値を基準値としているため、来年度からの検証とする		
新体力テストで県平均を上回る種目数	小：81/96 種目 中：39/48 種目	小：54/96 種目 中：26/48 種目	小：96/96 種目 中：48/48 種目
小中学校などの教育施設に満足している割合	22.4%	※	37.0%
子ども大学に満足している参加者の割合	84.0%	85.0%	90.0%
ジュニアリーダー登録者数	70 人	71 人	100 人

※ 本指標は、4年に一度実施する市民意識調査による。

基本目標 4 時代に合った活力ある安心な地域を創る 「地域活力創造戦略」

数値目標	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
本市に住み続けたいと考える市民の割合	75.4%	—	80.0%

※ 本指標は、4年に一度実施する市民意識調査による。

(1) 時代に合った地域マネジメントの推進

平成27年度は、前年度に引き続き市内循環バスを6路線で運行した。平成28年度も現行の運行を継続するとともに、平成29年度からの新たな運行に向けて、必要な準備を進める。

また、人口減少に伴う空き家の増加に対応するため、平成27年度から開始した空き家等の解体・撤去に対する補助については、昨年度計4件の利用があった。今後はPRの充実等により、本制度の周知を図る。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
循環バス利用者数	231,021人	244,723人	240,000人
老朽空き家解体補助件数	—	4件	10件(累計)

(2) 地域コミュニティの連携強化

平成27年度は、いきいき元気サポート制度のサポーター登録者数が若干の減となったものの、新たに1事業者と支え合いネットワーク協定を締結し、地域で支え合う体制の充実を図った。また、自治会連合会と連携した自主防災組織の設立促進や、自主防災組織リーダー養成講座等を実施した結果、自主防災組織の組織率は向上した。

平成28年度はこれらの取組みを引き続き推進するとともに、これらの活動が持続可能となるよう支援策等を検討する。また、市民やNPOをはじめとした市民活動団体の活動を支援するため、コミュニティセンターみずしろ内に設置した「市民活動サポートセンター」の周知を図る。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
いきいき元気サポーター数	225人	196人	300人
支え合いネットワーク協定締結数	14件	15件	24件
自主防災組織の組織率	86.0%	98.4%	100.0%
自主防犯活動団体数	152団体	154団体	160団体
市民活動に関する相談件数	—	3件	50件

(3) 健康長寿づくりの推進

平成27年度は、市民けんこう大学や健康づくりチャレンジポイント事業に加えて、新たに市内5箇所の健幸案内所開設、市内11薬局における糖尿病予防検体測定室の開設等により、市民の健康づくりに対する支援の強化を図った。また、介護予防事業についても、公園でのパワーアップ講座、チャレンジ・ザ・ジムなど新たな取組みを実施し、介護予防の推進を図った。

関係KPIは概ね上昇しているが、老人クラブ加入率は、価値観の変化や多様化などから減少している。今後は、継続的な支援や、活動の魅力を積極的に発信する広報活動を通じて、活動を支えていく。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
健康教室等参加者数	5,456 人	5,673 人	6,000 人
健康診査受診者数	13,448 人	14,987 人	16,000 人
老人クラブ加入率	10.3%	9.5%	15.0%
シルバー人材センター会員数	342 人	357 人	360 人
介護予防事業参加者数	3,139 人	5,359 人	3,300 人
週1回以上運動している人の割合	37.8%	※	50.0%

※ 本指標は、4年に一度実施する市民意識調査による。

(4) 地域間連携の推進

今後、埼玉県内においても人口の減少が見込まれる中で、新たな一般廃棄物処理施設等の建設にあたり、鴻巣市、北本市及び本市による「鴻巣行田北本環境資源組合」が平成26年度にスタートした。平成35年4月の稼働を目途として、今後も調整を行う。

平成28年度は、北埼玉地域の3市（加須市、羽生市、行田市）共同で、それぞれの市の観光施設等を巡る観光ツアー及び婚活ツアー等を実施し、若者の結婚意識の醸成と、将来の北埼玉地域への定住を促進する。

KPI	H26 基準値	H27 実績値	H31 目標値
地域間連携取組数	1 件	1 件	2 件